

春隣両手で受くる背番号

久保田 あや子

【評】初めて「背番号」を貰えることになった感激の一場面であろうか。「両手」を揃えて、しっかりと受け止める。軽いはずの「背番号」の布も、この時はやはりずしりと重く感じられたことだろう。やっと掴んだレギュラーの座。がんばろうと心に誓う。野球かその他の競技かはわからないが、レギュラーとして「背番号」を貰う喜びと意気込みは、どの競技でも変わらないはずだ。時は「春隣」。これからレギュラーシーズンが始まる。